



令和4年度 保護者・生徒・地域の皆さんへ
長野高等学校 学校長だより
〔「学校長だより」はホームページにも掲載しています。〕

令和4年
No.9
9月12日（月）

ECC 班、2つのコンテストで優勝、多くの皆さんが優秀な成績を収めました。

夏休み前のことですが、7月18日（月）に「長野県高校生英語レシテーションコンテスト」が開催され、本校からは10名（参加できる上限人数）が参加しました。全県で87名が参加し、本校の10人は全員が準決勝（30人枠）に進出し、さらに決勝（6人枠）に、田中小弓（1年）・宇梶葵（2年）・中村朱里（2年）さんの3人が進出し、田中さんが優勝、宇梶さんが3位となり、本校の皆さんが長野県の上位を独占しました。優勝した田中小弓さんのコメント「周りの皆さんとも一緒に協力して、毎日しっかりと練習を頑張ってきたので、このような結果が出せてとてもうれしいです。」

8月4日には「PDA長野県高校生即興型英語ディベート交流県大会」が開催され、Experienced（一般）の部で長野Aチーム（中村朱里・石井友規・浜田彩花さん）が優勝、長野Cチーム（戸田真由佳・岩崎沙夏・宇梶葵さん）が2位、ベストディベーター賞1位に岩崎沙夏さん。Beginner（初心者）の部で長野Eチーム（岩原大吾・山崎心緒・関櫻子さん）が2位、ベストディベーター賞1位に関櫻子・小林虎聖さん。このほかに、ベストPOI賞、スピーカーポイント賞も上位を長野高校が独占しました。これで7年連続全国大会進出が決まり、12月24日には各県の代表強豪校と対戦することとなります。おめでとうございます。



浜田彩花さんのコメント「夏休み前にチームが決定してから、ずっと優勝したいと思い、一つ一つ論題を検証してきました。論題が発表されて15分間のプレパレーションタイムも上手に使えたと思います。去年は全国5位になった先輩チームの対戦相手でしたが、そんな先輩の姿を目指してさらに頑張りたいです。」

岩崎沙夏さんのコメント「チームの仲間とは言いたいことが言えるとても良い雰囲気でした。十分準備したので当日は楽しかったです。自分はセカンドというポジションでチームの仲間から助けられる立場で、チームワークが良かったからもらった賞だったと思います。」



夏休み等に特別な活動をした生徒の皆さん

夏休みの間、中学生体験入学（北信・東信・中信地区65校から生徒・保護者等787名来校）、3年学習合宿・学校学習、東大セミナー、東北大セミナー、検察庁職場体験等や各班の合宿・遠征等、普段はできない活動が実施されました。また、高体連・高文連等の全国大会が開催され、本校の生徒の皆さんが出場・参加しました。さらに生徒さんの中には各種セミナー等で全国の仲間とともに普段と

は異なる活動や、中には海外で活動した人もいました。そんな生徒さんの一端を紹介します。

全国物理コンテスト 物理チャレンジ(全国大会)に出場

懸垂幕にもあったように標記大会に**内山誠大**さん（3年）が出場しました。この大会は国際物理オリンピック日本代表選考を兼ねており、毎年5～6月頃に第一チャレンジ（約1,900名）、8月に第二チャレンジ（100名）、翌年3月にチャレンジファイナル（約12名）、そして8月に国際物理オリンピック（5名）に出場という流れになっています。標記大会は第二チャレンジに相当し、今年は8月23～26日の3泊4日の日程で姫路市文化コンベンションセンター「アクリエひめじ」で開催されました。



内山さんのコメント「この大会の存在を知ったのは2年の冬で、今年になってから結構頑張って準備しました。5月に実験レポート提出、7月に理論試験があり、100名に選ばれました。23日には「水平振り子」「超音波の干渉」実験を5時間、24日は物理問題5時間の試験があり、他には交流会と問題の解説、25日は大型放射光施設 Spring-8の見学と研究者が各自の研究について語るフィジクスライブ、26日は表彰でした。授業の物理も公式や原理が

物理者チャレンジの様子（HPより引用）

分かり面白いですが、この大会や学習を通じて、自分の身の回りの現象・事象について物理を通じて理解したり、物理が実生活にどのように役立っているのか知ることができました。」



海外(カンボジア)で教育支援活動に参加してきました。

大西彩桜さん（2年）が8月14～31日までNPO法人HEROが主催する海外インターンに参加しました。このNPOは世界各地で学校に通えない子供たちのために無料の学校を作るなど、教育の機会を提供する活動をしています。**大西**さんのコメント「両親がこの団体に寄付をしていて、送られてくる手紙にあった教育を受けられない現状や飢餓に苦しむ子供たちに衝撃を受けて、自分でもその状況を調べましたが、自分の目で見るなど五感を使って知りたい、と思ったのがきっかけです。インターン参加者は期間や内容は様々で、私は学校建設のお手伝いや、小学校での活動の補助のほか、自分で考えた企画を実践するなどでした。NPOのメンターにも相談しましたが、自分自身の判断で行動するのが基本でした。カンボジアと日本の小学生との違いも新鮮で、ネットもないので世界各地の写真に純粋に感動してくれる一方、集団での行動が基本ではないのに苦労しましたが、一番の違いは、カンボジアで子供の物乞いや児童労働をしている様子が見られたことです。子供に泣きそうな声でお金をせがまれたときの記憶は今でも深く残っています。このプログラムに参加する前は、漠然と教育という分野に関心がありましたが、この体験に参加して、教育開発に関わるのが良いかな、と大学進学目標や学部などが、かなり明確になりました。」



他にも特別な活動をした人はたくさんいますが、ほんの一部の皆さんの経験を紹介しました。



現地の小学校の様子